

自然科学系図書館の特別開館（24 時間利用）の中止について
（持続可能な「自学自習」の確立に向けて）

平成 21 年 1 月 5 日
金沢大学附属図書館長
柴田正良

平成 17 年度より自然科学系図書館が新しく角間南地区に開館して以来、学生・教職員のみなさまの便宜のために、夜 8 時の閉館以後も翌朝まで図書館を開放し、特別開館（いわゆる自然科学系図書館の 24 時間利用）を実施して参りました。

しかしながら、このたび、24 時間利用体制を抜本的に見直した結果、以下の理由により来年度より 24 時間利用を中止することになりました。自然科学系図書館を時間外にご利用頂いていた学生・教職員のみなさまにはご迷惑をおかけすることと存じますが、どうぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

自然科学系図書館の特別開館（24 時間利用）に関しては、それを主に検討するワーキンググループを立ち上げ、その提案を全学の図書館委員会に諮り、そこで得られた「24 時間開館中止」という結論をすでに情報企画会議、教育企画会議、教育研究評議会において報告し、了解を得た次第です。

24 時間利用中止の主な理由は、（1）閉館後のセキュリティが確保できない、（2）冷暖房なしの状態であり、滞在しうる学習環境を提供できない、（3）カードキーを持たない学生（文系・医系・理系 1～2 年生）が利用できない、ということです。

このうち、閉館後のセキュリティ問題がもっとも深刻であり、現状では、巡視・監視等の管理体制が十分とはほど遠い状態にあります。したがって、この状態を抜本的に改善することが現在の本学において困難である以上、利用者を危険に晒すことはもっとも回避すべきことであり、閉館時の利用を中止せざるをえないと判断いたしました。残りの 2 つの理由も、もともと 24 時間利用を本学が運営・施設整備の面から全学体制で実行してきたわけではないという弱点に関わっています。例えば、「冷暖房をきちんとしてほしい」という、夜間利用者の不満の声に対しては、「自然科学系図書館は正式には夜間＜開館＞しているわけではなく、ただ、学生・教職員の資料閲覧・複写を許可しているだけである」というのが私どものせいぜいの言い訳でした。しかし、全学体制による 24 時間＜開館＞実施に立ちはだかる問題としては、現在の閉館後の入館者は全体の 7%程度にすぎず、午後 10 時以降では 5%程度でしかない、という冷厳たる事実もあります。

一方、セキュリティ対策を含めたこのような費用対効果とも言うべき考慮とは別に、図

書館を 24 時間開館することが本当に大学にとって手放しで歓迎すべきことなのか、という根本的な問題があります。ご存じのように、ニューヨークでは地下鉄が 24 時間走っており、深夜でも早朝でも市民はそれを気軽に利用することができます。というよりも、正確に言えば、24 時間営業の地下鉄を利用せざるをえない生活スタイルで市民生活ができあがっているわけです。しかし、翻って、大学はどうでしょうか？ 少なくとも本学においては、深夜・未明の活動を研究や勉学の基本サイクルの中に恒常的に組み込んでいるような学生・教職員はいないはずで、とすれば、たまたま、試験やレポートの直前に「開いてよかった」という場合もあるかもしれませんが、しかし、それは翌日の研究や勉学のことを考えれば、持続可能なスタイルとは言えないでしょう。ことに、学生にとっての本学の理念「自学自習」が、一過性の興奮状態で達成されるわけではなく、落ち着いた持続可能なプランによって初めて実効的となる、ということは明らかではないでしょうか。したがって、図書館は、学生のみなさんの「計画に基づく学習と研究の進展」を支援するのに吝かではありませんが、コンビニのような便利機能を提供することは本義ではないと考えています。

なお、持続可能な「自学自習」の支援ということでは、来年度より図書館は、学生のみなさんの要望に応えるべく、全学的な理解と協力のもとに、中央図書館、自然科学系図書館、医学系分館の 3 館すべてにおいて、通常期平日夜 10 時までの開館時間の延長を行うことを決定いたしました。前にも増したみなさんのご利用をお待ちしております。

ただし、図書館としましては、「24 時間利用中止」の件につき、とくに学生のみなさんのご意見を直接に聞く必要があると考えており、平成 21 年 1 月 28 日（水）に、主にこの問題をテーマとした「図書館長と学生の懇談会」を計画しております。24 時間利用中止に限らず、この際、図書館のさまざまな事柄について、みなさんの率直なご意見をお聞かせ願えれば幸いです。

以上。